

9月定例会では、5議員から
13項目の質問がありました。

一般質問

一般質問目次

山内 彬 議員

- 2期目を指す基本的な公約について
- 行政経営推進の具体的な検討結果と改革案は
- 津別霊園の整備について
- 町道250号線(共和美都間)の未改良部分の整備を

篠原 眞 稚子 議員

- 学校の耐震化について
- 防災プランの策定と訓練の見直しは

村田 政 義 議員

- 1期4年間の進捗状況について
- 若い勤労者向け定住促進住宅について

谷川 忠 雄 議員

- 津別中学校校庭樹木の管理のあり方は
- 町政に取り組む基本姿勢は

茂呂 竹 裕子 議員

- 置き雪の改善計画はできたか
- 高齢者・障がい者の移動手段の確保について
- 就学援助制度基準・内容見直しはできないか



山内議員 6月の議会において再選出馬を表明したが、2期目を指す基本的な公約

Q 2期目を指す基本的な公約について A 第5次総合計画を実行に移すこと

について伺いたい。

町長 第5次総合計画における、中心市街地活性化プロジェクト、地場産業活性化プロジェクト、まちづくりセンタープロジェクトの3プロジェクトの推進を行っていきたい。また、町政方針のサブタイトルを「美しく、美味しいまちに」と考えている。

4年間で実現させたいものは次の8項目です。

- ① 廃屋の取り壊しに対する助成制度。
- ② 地場産業活性化とも連動したB級グルメの挑戦。
- ③ 中心市街地の活性化に対する支援。
- ④ 子ども園と子育て支援センター併設施設を25年度建設を目指す。
- ⑤ 観光事業の拡大。
- ⑥ 行政サービスの民間委託の推進。
- ⑦ 住民満足度の定点観測によるサービスの見直し改善。
- ⑧ 議会のインターネット中継。

行政経営推進の 具体的な検討結 果と改革案は

山内議員 新しい機構の中で新設された行政経営推進室で検討された結果と改革案の実行計画について伺いたい。

津別町事務事業 外部委託検討委 員会を設置

町長 外部委託の中でも大きな課題として捉えている、特別養護老人ホーム・デイサービスセンター及び町営バス・除雪町道維持管理業務の民間委託について現在検討を進めています。

津別霊園の整備 について

山内議員 津別霊園は周辺が住宅街となっており、周辺住民と一体となった住環境整備を進めるべきでないか。

霊園利用者の利 便性と周辺住民 の環境を配慮

町長 霊園周辺の排水路整備、敷地内連絡道路整備、外周柵設置など津別町過疎地

域自立促進市町村計画で約3千万円の整備計画を考えています。

町道250号線(共和美都間)の未改良部分の整備を

山内議員 北海道の代行業で行われ、平成14年に津別町へ移管となつてから相当の年数が経過しているが整備を早急に進めるべきでないか。

用地の相続人を確認し整備を進めたい

町長 不在地主による用地未買収の未施工区間80坪を今後行うには相続人との協議など時間を要することから、現道路幅での改良舗装もしくは防塵処理を検討、相続人との意向確認がとれましたら協議を進めていきます。



教育長 平成19年、津別小学校校舎及び活潑小中学校校舎と体育館の耐震診断を実施しました。その結果、津別小学校で旧

Q 学校の耐震化について

A 補強か新たな建設か検討中



篠原議員 今年7月23日付の北海道新聞の社説に、「学校の耐震化、子どもらの安全を第一に」、翌24日付には、「管内の公立小学校の耐震化率、全道平均を下回る」との記事があり、18市町村の数字が出され、津別町は55・6%で、全道の60・6%、管内の56・7%を下回っていました。このことについて、

どう考えているか伺います。

校舎の1、2階の部分、活潑小中学校では1、2階の校舎の一部と体育館の上のガラス部分、それと鉄骨が非常に弱く、改修を進める必要があると思っております。

津別小学校については将来とも町の中心校として、また、災害時の避難場所としても活用を図らなければならぬというところもあり、耐震補強か、築36年経過しているの、新たな建設をするのか、現在検討をしているところです。

また、活潑小中学校の校舎、体育館については、児童の安全と災害時の避難場所に指定されていることから、24年度において耐震補強を実施したいと考えています。

防災プランの策定と訓練の見通しは

篠原議員 昨年、町長は、「災害時要支援者避難プラン」は

国のガイドラインに合わせた支援プランでは不十分なので、より具体化して定められた21年度末までに策定を進めたいと答弁されましたが、進捗状況はどうか。

また、自主防災組織を名実ともに機能させるためには、日常の実践活動が不可欠となり、災害時に本部となる役場としても、情報の伝達や避難所開設、誘導、初期対応の訓練など住民を交えて実施したいと答弁していましたが、どのようになっているのか伺います。

プランは早期に、訓練は10月実施予定

町長 国からプラン策定の目途として求められていますが、本年3月末までの策定には至っておりません。

現在、文章のあらあらの原案はできているのですが、要

支援者の情報の収集と避難、支援体制の整備がまだ十分に進んでいないのが実情です。

プランの策定にあたっては、個人情報保護の観点から慎重に進めなければならない部分もありますが、それぞれの機関が保有する情報の扱い方の検討も十分行いながら、津別に合ったプランをできるだけ早期に策定したいと考えています。

防災訓練については、10月13日に本町自治会と岩富地区に合わせて、町の災害対策本部の設置訓練を兼ねて行おうと考えています。



災害に対しては、机上ではなく、体を動かして覚えることが重要であると考えていますので、さまざまな機会をとらえて、自主防災組織に対する協力や、新たな組織づくりに向けた取り組みを関係機関と連携をとりながら進めていきたいと考えています。

Q 1期4年間の進捗状況について

A 町民との会話を重視した町政の運営を



村田議員 町長は、「あいさつをしあう町に」を柱に町民との会話を重視した行政執行や、「町は舞台、町民が主役」を基本に、町民により策定された「第5次総合計画」がスタートしたところです。

国、道の様々な臨時交付金を活用し、町営住宅、町民会館の整備、Kニット工場の再開、森の健康館の再生、木質ペレット工場の新設など雇用拡大への取り組みは評価できると感じています。

しかし、「あいさつをしあう町に」を進める中でどうであったのか。若い人たちが定住できる環境への取り組みが十分ではなかったのではないかと思います。

また、離れた集落地の整備

も含め今後の課題として残されていると思いますが、4年間の進捗状況について伺いたい。

町長 この4年間、「あいさつをしあう町に」を町政方針のサブタイトルとして、町政を進めてきましたが、コミニケーションの手段として、あいさつをきっかけに、社会的なつながり、信頼関係、犯罪防止効果などを意図するところでした。

あいさつから始まる見守り、助け合い、町民の皆さんが行う自主的な活動をおして実践されることを希望します。

「歩いて暮らせるまちづくり」も同時に進めており、津別町住生活基本計画の理念を反映させ、今年より、まちなか団地の建設を開始しています。住宅や交通などのさまざまな計画を策定し、実践してきました。

市街地以外の集落地の振興計画も総合計画の中にはいっており、しっかり目を向けて対応していきたい。

若い勤労者向け定住促進住宅について

村田議員 町営住宅の入居基準に合わない若い勤労者の

定住促進のために、早期に特定公共賃貸住宅の建設に着手すべきだと思いますが、考えを伺いたい。

前向きに進めていく

町長 特定公共賃貸住宅は74戸で空きはありません。今年の町営住宅と特定公共賃貸住宅の応募状況を見ますと、

町営住宅5戸の募集に対して応募は1人、特定公共賃貸住宅は募集7戸に対し応募は15人と倍以上になっています。このことから、特定公共賃貸住宅の必要性を感じています。



Q 津別中学校校庭樹木の管理のあり方は

A 学校環境を考慮し適切に管理したい



教育長 校庭樹木は夏の体

害の音が聞かれるが、どう対応するのかお聞きしたい。

①樹高の芯止めの対応。
②老木の伐採と更新。
③花粉症の防止対応。

育授業の休憩で日陰に利用し、グラウンドの防風林的な役割もある。

①混み合っている白樺はある程度伐採し、必要なものは半分程度の高さに芯止めをする。
②大半の樹木は心配ないが白樺と桜、ストロブは学校側と協議し老木等を伐採するが、日陰や後継木も検討し更新する。
③特に花粉の強い白樺は、伐採、芯止め、枝払いなど周辺住民生活を考慮し検討したい。

谷川議員 近年、校庭木の樹高が伸び過ぎて、かつ、老木化が散見され、毎年の適切管理が必要と判断されるが、考え方を伺いたい。特に、白樺による近隣住民の花粉症被



町政に取り組む 基本姿勢は

谷川議員 ①基本姿勢である「大好きな津別」と公約をどう考えているか。

②新総合計画の「町は舞台、町民が主役」とは具体的にどのような取り組みを指すのか特に、重要施策に対する町民への姿勢を伺いたい。

③町長の今期退職金の概算額を伺いたい。新聞、雑誌等に高すぎる首長退職金の記事があり、職員退職金と比較してもあまりにも高額で、町財政窮迫の折、憂慮されるが考え方はどうか。また町長は年額給与で厚遇されており、町政方針に矛盾しないのか。全道的に低減の動きがあるが、町長の考えはないか。

公約はほぼ達成し、退職金は約1千455万円です

町長 ①町道整備、企業誘致など公約を着実に進めてきました。

②町民主役のまちづくりは現在実行計画を作成中で、町民がまず担い手となることを基本として、町民、企業、団体と仕事を分かち合いながら進めることが基本です。

③退職手当は法令等の規定により支給され、ほとんどの自治体は北海道市町村職員退職手当組合に加入し、給料月額に約20か月を掛けた額で、約1千455万円です。

退職手当の削減は時代の趨勢に合わせて見直され、21年度には特別職の支給率を若干下げた状況になっています。また辞退や額の引き下げは、公職選挙法で寄附の禁止行為に当たり、自主返納も現行法令では難しい状況です。

Q 置き雪の改善計画はできたか

A 間口除雪は住民自ら取り組むもの



自ら取り組みものと考えますし、建設業界が有償サービスを検討しており、これを踏まえ12月に除雪計画を配布します。

高齢者・障がい者の移動手段の確保について

茂呂竹議員 ①無料バス券

を病院に使い果たし、その後通院や買い物にも出られない人が出ている。一方でバス券を使わない人も多い。必要なとき安心してバスを利用できるように「無料バス」にしてはどうか。

拡大する分は自己負担で願いたい

町長 ①無料バス券は対象高齢者の71%に交付し、そのうち利用は37%です。障がい者への交付率は56%で利用率40%、これにかかる費用は

②介護タクシーを利用している障がい者にも、外出できるよう介助者を含めバス券を配付できないか。

③ハイヤーの営業時間の変更になり、早朝のバスに乗って通院する障がい者の足に支障が出ているが、冬に向け何か方策は考えられないか。

就学援助制度基準・内容見直しはできないか

茂呂竹議員 就学援助制度は、経済的理由によって就学が困難な者に対し奨学の措置をとらなければならない、援

②介護タクシーで通院している方には、町の事業でタクシー料金の半額を助成していただきますので、無料バス券の併給は行っていません。

③ハイヤー会社の営業上の理由から朝8時から夜8時となりましたが、民間会社として経営効率を考えたことで、すべて町民の要望にこたえられないこともあると考えます。



- 助の主体は市町村であると規定されています。経済状況、雇用の悪化は貧困と格差を広げ、一方で父母負担が増加の傾向にあります。
- ① 援助の基準枠を上げられないか。
 - ② 援助内容が新たに追加されたが実施しているか。
 - ③ 入学準備金の支給を早められないか。

新たにクラブ活動費など新年度実施したい

教育長 要保護、準要保護者に対しては、支給基準、内容については、文部科学省の交付要綱を準用しています。

- ① 基準枠は生活保護の1.2倍ですが、本町の場合1.3倍で実施しています。
- ② 要保護者には22年度からクラブ活動費、生徒会費、PTA会費が加わったので、準要保護者も23年度から支給したいと考えています。
- ③ 前年の所得、収入状況で勘案し、進学する学校長の証明が必要なので非常に難しい問題であると思っています。

委員会活動

常任委員会 特別委員会

各常任委員会・特別委員会は議会の閉会中も委員会を開催し、所管事務について協議しています。

総務文教常任委員会

第4回（9月13日）

- ・ 相生テレビ共同受信施設組合施設改修に伴う助成について
- ・ 職員住宅の整備計画について
- ・ (仮称)津別町多目的活動センターについて
- ・ 過疎地域自立促進市町村計画について（平成22年度～平成27年度）

産業福祉常任委員会

第4回（9月14日）

- ・ 町営住宅等の駐車場使用料の設定について
- ・ 町有住宅の住宅料について
- ・ 町営住宅まちなか団地（Ⅱ工区）の計画について
- ・ 鳥獣被害防止対策事業について
- ・ 老人福祉寮条例の一部改正について

第5回（9月21日）

- ・ 農林業関係事業分担金徴収条例について
- ・ 旭町町有住宅建設事業について

議会運営委員会

第12回（8月30日）

- ・ 第6回津別町議会臨時会の運営について
- ・ 議会運営委員会の視察結果について（斜里町議会・美幌町議会）

第13回（9月22日）

- ・ 第7回津別町議会定例会の運営について
- ・ 各種委員の推薦について
- ・ 意見書の取り扱いについて

第14回（9月30日）

- ・ 第8回津別町議会臨時会の運営について

決算審査特別委員会

第1回（9月28日）

- ・ 正副委員長の互選について
- 委員長 谷川議員
- 副委員長 山内議員

議会広報特別委員会

第8回（10月14日）

- ・ 議会報134号の編集について